

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 2月3日は、高気圧が東シナ海へ移動して日本の南に張り出す。日本付近ははじめ冬型の気圧配置となるが、次第に緩む。
- 4日は、高気圧が日本の南へ移動し、日本海に気圧の谷が進む。
- 5日から6日は、気圧の谷が日本付近を通過する。
- 7日は、発達した低気圧がオホーツク海に進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。

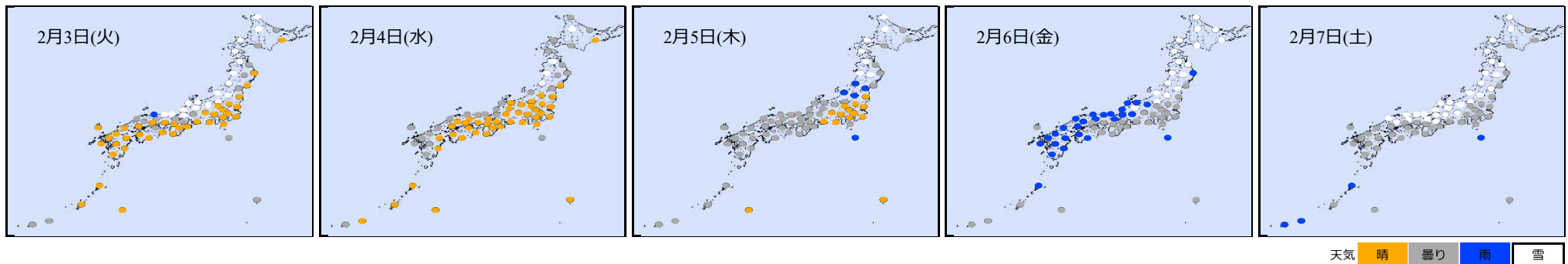
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

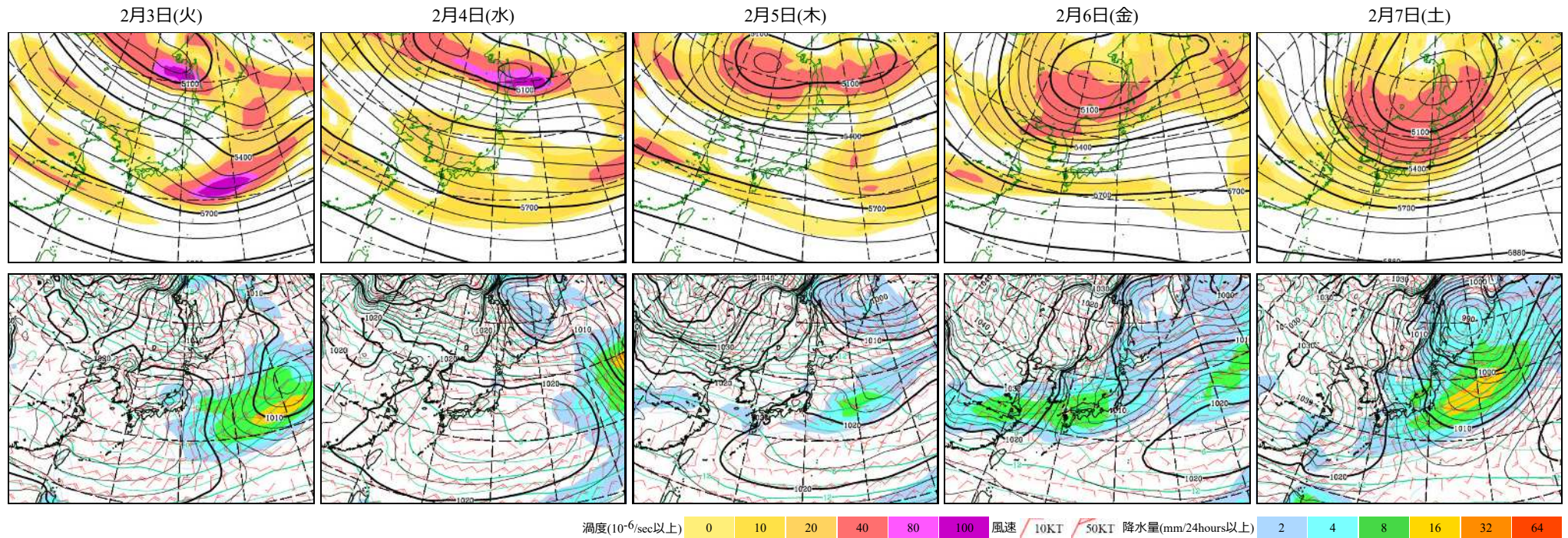
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

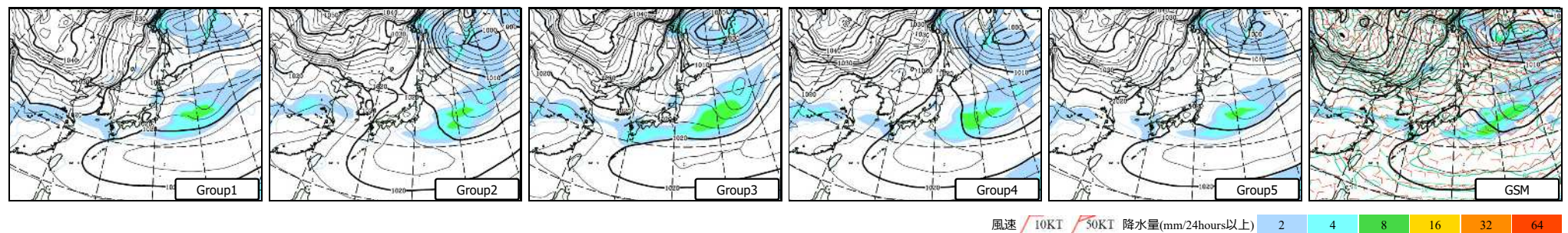


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 西日本太平洋側は、2月3日と4日は晴れる所が多い。5日から7日は雲が広がりやすく、6日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、3日から5日にかけては晴れまたは曇りとなるが、6日と7日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月5日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、2月6日に中国東北区に進む寒冷渦の動きが遅くなった。地上の気圧配置は、5日は日本の南に高気圧が残る予想となり、日本付近に進む気圧の谷の南下が遅くなった。
- 4日まではモデル間の差は小さく、初期値変わりも小さい。5日以降は中国東北区からオホーツク海に進む寒冷渦の動きが遅くなるモデルが多い。また、5日は渦を回るトラフの予想にモデル間の差がある。
- 地上の低気圧の予想も、5日についてはモデル間の差が大きくなった。ECMとNCEPは北海道付近に低気圧を予想するが、GSMは初期値変わりして低気圧が遅れる予想になった。ENSは、GSMに近いメンバーが多いが、海外モデルに近いメンバーも2割程度ある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、5日に北海道付近に進む低気圧については、初期値変わりの小さい海外モデルの予想も参考に予報を組み立てる。